

地域に対する住民の意識が地域愛着度と観光への関わり意欲に与える影響

—地域への所属感と地域評価, 観光振興に着目して—

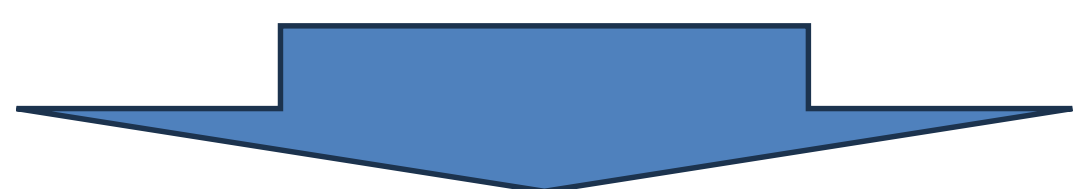
muucurucuru@gmail.com

○室町祐輔¹・大杉尚也²・上市秀雄³¹筑波大学大学院・²株式会社かまいしDMC・³筑波大学システム情報系

本研究は釜石市の協力を得て、第3回調査として実施した『観光振興と交流人口の拡大による住みよいまちづくりに向けた「地域に対する住民意識調査」』のデータを使用した。利益相反情報：第2著者は所属する会社の委託事業の一部として本研究に携わっている。

背景

- ×釜石市は、2011年3月の東日本大震災により大きな被害を受けた。その復興と新しい地域づくりの方針として、2017年に「釜石市観光復興ビジョン」を策定した。
- ×釜石市観光復興ビジョンでは、観光振興において「住まう誇り」を高めることを大きな目標としている。



課題1:「住まう誇り」を測定するための基準

→**地域愛着度**(引地他, 2009; 杉本他, 2020)に着目

課題2: 観光振興により「住まう誇り」を高めることにどう寄与しているのかが不明瞭

→地域評価と観光振興を通じて、**地域愛着度**と住民の**観光への関わり意欲**の関連性の検討

本研究の目的

地域に対する住民の意識を「地域への評価」と「観光振興への評価」に分け、**地域愛着度**と**観光への関わり意欲**への影響を解明する。

*杉本他(2020)を参考に、住まう誇りに関する質問項目を**地域愛着度**とし、自身が地域の一員と感じるかに関する質問項目を**地域への所属感**として測定

地域への住民の評価:「釜石の治安評価」「釜石での学びの機会」「釜石の街並み評価」を測定

観光振興への住民の評価:「観光振興の効果の実感」「地域活性化施策(観光)への期待」を測定

東日本大震災により大きな被害を受けた釜石の経験として「個人の震災復興への前向き評価」を測定

方法

- ×**調査対象**: 岩手県釜石市在住の18歳～70歳未満、1,400人
- ×**調査時期**: 2024年9月9日～9月30日に質問紙を配布・回収
- ×**回収数**: 401名(28.6%)
- ×**分析対象回答数**: 303名(21.6%)

質問項目: 5段階評定(1:あてはまらない～5:あてはまる)

地域愛着度: 引地他(2009)を参考

- ・10項目「この土地は自分にとって住みよい場所である」など

観光への関わり意欲

- ・3項目「今後、地域住民として観光振興に参加したい」など

地域への所属感

- ・3項目「自分は、自分が住んでいる地域社会の一員であると感じている」など

釜石の治安評価

- ・2項目「釜石の治安は良い」など

釜石での学びの機会

- ・3項目「釜石には、子どもが文化や自然を学べる場所が多い」など

釜石の街並み評価

- ・3項目「釜石の街並みや自然はきれいだ」など

観光振興の効果の実感

- ・6項目「釜石は、観光によってにぎわいが生じている」など

地域活性化施策(観光)への期待

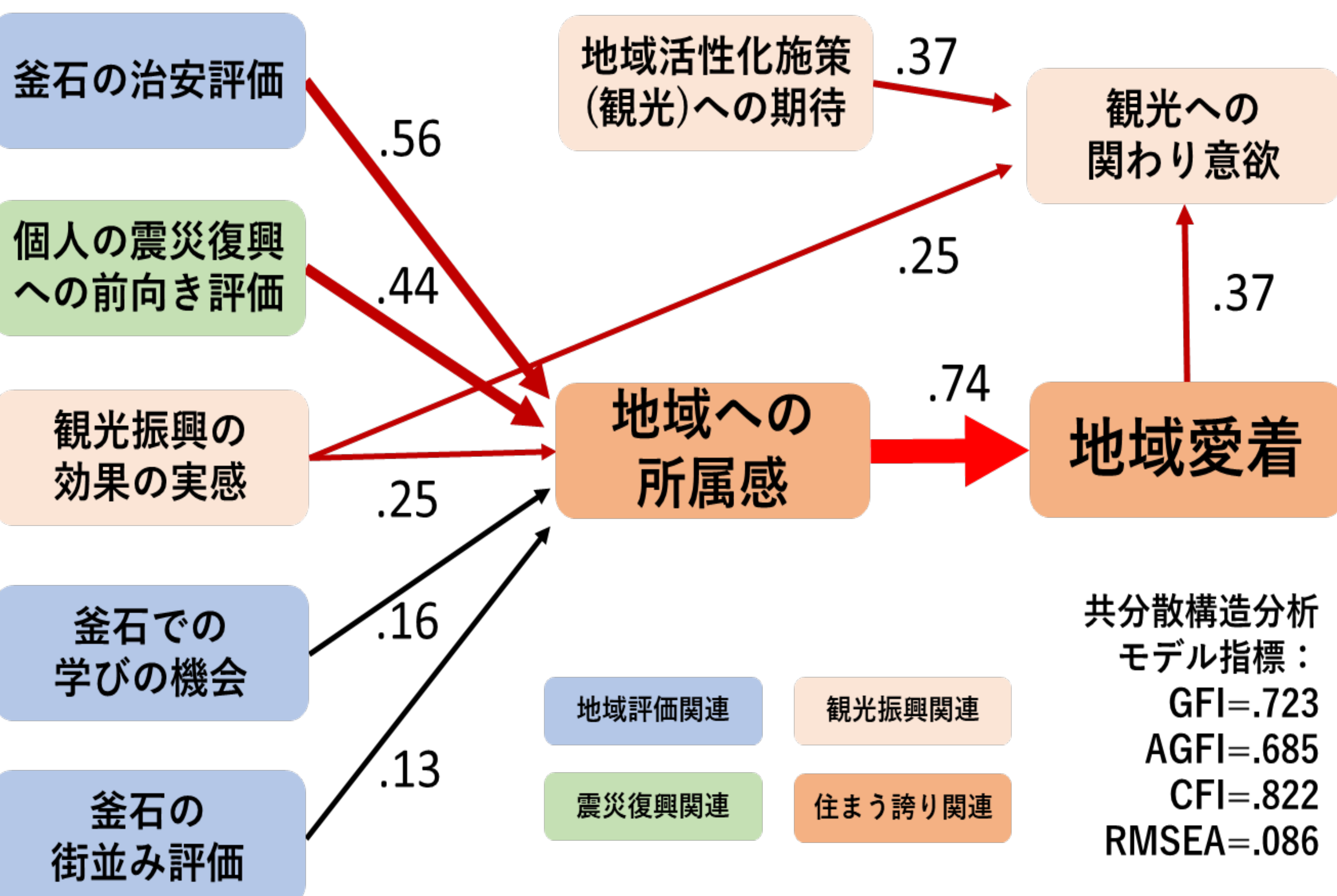
- ・4項目「釜石の観光振興は、経済活性化に重要である」など

個人の震災復興への前向き評価

- ・3項目「震災復興の中で、私は、新たなチャレンジをしたいと考えた」など

結果

地域住民意識が地域愛着度・観光への関わり意欲に与える影響モデル



まとめ

- ・**地域愛着度**を高めるためには、まず**地域への所属感**が重要であり、そのために地域の治安に対する評価が高い必要があることが明らかになった。
- ・住民の**観光への関わり意欲**を高めるためには、住民の**地域愛着度**を高めるとともに、住民が観光施策の効果を実感し、**地域活性化の施策に期待感を持つ**ことが重要であることが明らかになった。
- ・地域の事情として、東日本大震災の影響は大きかった。**震災への向き合い方**, **新たな目標や人間関係が**, **地域愛着度**を高めるうえで重要であることが明らかになった。

参考文献

- 杉本・杉野・上田・船坂(2020). 現代日本社会における「関係人口」の実態分析: 全国アンケート調査の結果から 沿岸域学会誌, 33(3), 49—58.
- 引地・青木・大淵(2009). 地域に対する愛着の形成機構——物理環境と社会的環境の影響—— 土木学会論文集D, 65(2), 101—110.
- 釜石市観光復興ビジョン
<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2019010900055/> (最終閲覧日2025/03/26)